

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
構造及び性能(シャシ)	講義		2	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	阿波連 毅
			40	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車のシャシに関する機構学や構造について学習することで探求心を高め技術の向上に役立て二級自動車整備士取得に向けた対策
使用教科書・副教材等	二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	ディーラーで点検、一般整備としてトランス・ミッション/アクスル/ブレーキ/サスペンション/ディファレンシャル/ホイール・タイヤ等の整備及び検査

2 追試験基準

前期試験	試験50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	60 %	仮評価	
	レポート・提出物	20 %		
	発表の仕方及び内容	10 %		
	学習に対する取り組み	10 %		

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	4	①オートマチック・トランスミッション 1、構造、機能、名称を理解し学習する。 2、プラネタリ・ギヤの構造、作動原理を理解、習得させる。 3、トルク・コンバータの原理、作動を理解させ、性能曲線図の見方、計算問題の解き方を習得する。	①～④
		5		
		6	②フレームとボデー 1. フレームボデーに要求される機能、構造を理解し特徴を把握する。	
		7	③自動車の諸元 1、自動車の性能、特徴など、統一規格を理解し計算力を向上させる。	
	後 期	8	④パワーステアリング(操舵力倍力装置) 1、パワーステアリングについての原理、名称、構造を理解、学習する。	
		10		
		11		
		12		
1				
2				
3				

6 特記事項

基本パワーポイントにて動画、シュミレータを駆使し原理、作動を理解し必要に応じて単品部品等を用意し現物確認をしながら教科書、自動車整備士過去門との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
構造及び性能 (エンジン)	講義		2	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	真境名 元行
			40	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	ガソリンエンジンの電子制御と、ディーゼルエンジンの基礎と新機構の構造や作動についての基本に関することを理解すると同時に、特にガソリン、ディーゼルを中心に実際に活用できる能力を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン・二級ガソリン自動車エンジン編・三級自動車ディーゼル・エンジン・二級ディーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとしてエンジンオーバーホール等の一般整備の経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	① 電子制御装置	4	電子制御システムの概要、構造、作動、制御内容(燃料噴射制御、点火制御、ISC制御、電子スロットル制御)について理解を深める。	①～④
	② ジーゼルエンジン本体	5		
	③ 排気ガス後処理装置	6	ガソリンエンジンとの違いを学習することでディーゼルエンジンの基礎と 原動機の構造をしっかりと学習。	
	④ コモンレール式 高圧燃料噴射装置	7	ディーゼルエンジンにおける排気ガス後処理装置の概要、名称と構造 及び作動の理解を深める。	
学 年 後 期		8	コモンレール式高圧燃料噴射装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			1	0	学 年	二年次
性能	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	清水 耕児
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車の各種性能に関する工学的な知識を習得する。
使用教科書・副教材等	二級ガソリン自動車エンジン編・二級ディーゼル自動車エンジン編・二級自動車シャシ・自動車基礎工学(日本自動車整備振興会連)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期	4	自動車性能に関する基礎用語について理解を深める。	①～⑥
		5	内燃機関における熱効率及び、仕事率について理解を深める。	
		6	各種抵抗、駆動力、車速や加速、走行性能線図、制動距離や停止距離、制動力分配などについて理解させる。	
		7	駆動力、駆動動力、出力、仕事量、仕事率を諸元を元に計算し値を求める。	
	後 期	8	全般の計算問題を行い、計算方法などを理解を深める。	
		10		
		11		
		12		
年 期	1			
	2			
	3			

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			1	0	学 年	二年次
電気電子理論	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	清水 耕児
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近年自動車の電子化に伴い、その電気・電子の基礎及びハイブリッドや電気自動車の概要を学習し技術の向上へ役立てる。
使用教科書・副教材等	電装品構造(全国自動車整備専門学校協会) 二級ガソリン・ディーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
					%
					%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
前 期	①1年時の復習(バッテリー)	4	①1年時の復習(バッテリー) ②電気回路計算	①～⑤
	②電気回路及び計算問題	5	①1年時の復習(始動装置・充電装置) ②電気回路計算	
	③共振回路(LED回路)	6	③共振回路(コンデンサ・トランジスタ)の構造及び原理 ②電気回路計算	
	④ハイブリッドカーの構造	7	④ハイブリッドカーの構造及び種類、制御について理解させる ②電気回路計算	
	⑤電気自動車の構造	8	⑤電気自動車の構造及び種類、制御について理解させる ②電気回路計算	
後 期		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			1	0	学 年	二年次
エンジン整備法	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	真境名 元行
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エンジンの基本構造及び各部品類の構造を学び、理解する事でそれぞれに対応する整備法を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン・二級ガソリン自動車エンジン編・二級ジーゼル自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとしてエンジンオーバーホール等の一般整備の経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 二 学 年	前 期	① 燃料装置	4	燃料装置の構造機能及び整備法を理解する。	①～③
		② コモンレール式高圧燃料噴射装置の構造・性能	5		
		③ コモンレール式高圧燃料噴射装置の制御・整備法	6	電子制御式燃料噴射装置の構成及び構造、機能、整備法を理解する。	
			7		
	後 期		8	サブライポンプ、インジェクタの構造及び制御、整備法を理解する。	
			10		
			11		
			12		
		1			
		2			
		3			

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			1	0	学 年	二年次
シャシ整備法	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	阿波連 毅
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	シャシの点検・整備に当たり、その構造・機能を理解し、適切な工具や計器を使用して正しい作業手順を習得することで技術の向上に役立てる
使用教科書・副教材等	二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	ディーラーで点検、一般整備としてトランス・ミッション/アクスル/ブレーキ/サスペンション/ディファレンシャル/ホイール・タイヤ等の整備及び検査

2 追試験基準

前期試験	試験50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	レポート・提出物	10 %			%
	発表の仕方及び内容	20 %			%
	学習に対する取り組み	10 %			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
前 期	① オートマチック・トランスミッション ② フレームとボデー ③ SRSエア・バック プリテンショナ・シートベルト ④ パワーステアリング (操舵力倍力装置)	4	①電子制御式オートマチック・トランスミッション 1、車載状態における点検・整備。 2、車両からの脱着及び分解、組付手順。 3、不具合が発生しているときの着目点。	①～④ 前期試験
		5		
		6	②フレームとボデー 1、フレームボデーの亀裂処理及び補強作業。	
		7	③SRSエア・バッグ及びプリテンショナ・シートベルト 1、脱着時の注意事項・取外し、取り付け手順及び作動後処理。	
後 期		8	④パワーステアリング(操舵力倍力装置) 1、保守に係る点検・整備及び不具合時における着目点。	
		10		
		11		
		12		
		1		
		2		
3				

6 特記事項

基本パワーポイントにて動画、シュミレータを駆使し、整備手順を理解し必要に応じて単品部品等を用意し現物確認をしながら教科書、自動車整備士過去門との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			1	0	学 年	二年次
電装整備法	講義	年単位時間	前期	後期	教 員	清水耕児
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	電装品の整備方法を理論的に学習し、測定・検査機器の使用方法を理解することで安全で確実な整備ができる知識を習得している。
使用教科書・副教材等	2級ガソリン自動車エンジン編(日本自動車整備振興会連合会) 2級シャシ編(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期試験	試験50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	定期考査	70 %	仮評価	
	学習に対する取り組み	30 %		
		%		
		%		

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲	
第 二 学 年	前 期	4	冷媒量の点検、配管接続部の点検、冷媒の充てん、空気回路の点検の知識を習得する。	①～④	
		5	エア・バッグの脱着方法、作動処理の知識を習得する。		
		6	CANバス・ライン修理における注意点、終端抵抗修理における注意点、配線図の読み方の知識を習得する。		
		7	1年次の内容を含め復習を行い、知識を定着させる。		
	8				
	後 期	10			
		11			
		12			
1					
2					
3					

6 特記事項

基本パワーポイントにて動画、シュミレータを駆使し、整備手順を理解し必要に応じて単品部品等を用意し現物確認をしながら教科書、自動車整備士過去門との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
故障探求	講義		0	2	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	真境名 元行
			0	22		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車の故障探究について学習することで探究心を高め、理論的、効率的な故障探究技術の向上に役立てる。
使用教科書・副教材等	自動車の故障と探究(全国自動車整備専門学校協会)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとしてエンジンオーバーホール等の一般整備の経験

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
学 年	① 電子制御噴射装置の故障と探究	10	車両の維持管理やガソリンエンジンの基本的な点検方法を理解する。	①～④
		11	ジーゼルエンジン・電装品・シャシの基本的な点検方法を理解する。	
	② ジーゼルエンジンの故障と探究	12	自己診断機能による点検方法を理解する。	
	③ 電装品・シャシの故障と探究	1		
	④ 自己診断機能による点検	2		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
			0	7	11		
対策授業	講義	年単位時間	前期	後期		教 員	清水・真境名・阿波連
		0	0	176			

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	二級自動車整備士取得に向けた学科合格水準まで到達させる。
使用教科書・副教材等	2級ガソリン 回数別 問題と解説 / 2級ジーゼル回数別 問題と解説(公論出版)
教員実務経験	サービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員の経験

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 80%未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	模擬試験	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 期		4		
		5		
		6		
		7		
		8		
		9		
学 年	① 二級ガソリン・ジーゼル自動車整備士国家試験対策	10	①自動車整備士国家試験対策 二級ガソリン・ジーゼル自動車整備士国家試験に向けた 国家試験演習。	①
		11		
		12		
		1		
		2		
		3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
			1	1	0	学 年	二年次
検査法	講義	年単位時間	前期	後期		教 員	清水 耕児
		20	11	実務経験		有	

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車整備士と道路運送車両法の保安基準や道路運送車両法の細目を定める告示等との関連を理解する。整備士に必要と思われる一般的な車検整備や完成検査作業に活用させる。
使用教科書・副教材等	自動車整備士の法令教本(公論出版)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
					%
					%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
前 期	①自動車の構造	4	①構造用語と定義について理解させる。	①～④
	②自動車の装置 (原動機及びシャシ関係)	5	①自動車の長さや重量、安定性について学習する。	
		6	②自動車に装備される各種装置に関して学習し、理解を深める。	
	③自動車の装置(車体関係)	7	③～④車体関係の各種装置に関して学習し、公害を防止するための装置について理解を深める。車検整備作業に必要な知識を習得する。	
④自動車の装置(公害防止)	8			
後 期	⑤自動車の装置(灯火装置)	10	⑤灯火装置等の性能や取付け基準について学習する。	⑤～⑦
	⑥自動車の装置(運転操作)	11		
	⑦緊急自動車等	12	⑥～⑦警音器や非常用信号用具、特殊車両について学習する。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
関係法規	講義		1	1	0	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	清水 耕児
			20	11		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車整備士と関係法令との関連性を深め、将来自分で自動車整備工場を立ち上げるための認証基準や指定整備事業等の設備を学び、2級整備士に必要な知識を習得する。
使用教科書・副教材等	自動車整備士の法令教本(公論出版)
教員実務経験	自動車ディーラーでサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 二 学 年	前 期 (車両法) ①自動車の種類 ②登録制度 ③保安基準 ④点検整備制度	4	①法令の基本。法律、政令、省令、通達といった体系の理解を深める。	①～④
		5	①自動車の種類の定義や種別について学習する。	
		6	②登録制度の必要性について理解し、登録の種類について学習する。	
		7	③～④保安基準内での自動車構造や装置を理解し、点検整備の種類や点検時期、規則等を学習しながら知識を深めさせる。	
	8			
	後 期 ⑤検査制度 ⑥認証制度 ⑦指定制度 ⑧その他	10	⑤検査の種類や実施方法について学習し、自動車検査証の有効期間や記載事項についての知識を深めさせる。	⑤～⑧
		11	⑥分解整備事業の種類や認証基準について学習し、整備事業者の義務や遵守事項について理解を深める。	
		12	⑦～⑧分解整備事業者の認定基準や設備について学習する。記録簿の記載や事業者の罰則をしっかりと理解し知識を深める。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
			21	21	学 年	二年次
応用実習	実習	年単位時間	前期	後期	教 員	清水・真境名
			420	420	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を基に実際に作業することにより理解を深め、作業要領を習得し実践に向けた整備技術・点検、検査技術を習得する。
使用教科書・副教材等	二級ガソリン自動車エンジン編・二級ジーゼル自動車エンジン編 二級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	サービスエンジニアとして一般整備、点検・車検整備、自動車検査員の経験

2 追試験基準

前期	実技試験 50%未満
後期	実技試験 50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	実技試験	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	15 %			%
	提出課題・レポート	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲				
第 二 期	① 12ヶ月点検 ② エア・コンディショナ ③ 自動車検査実習 ④ 応用電子 ⑤ オートマチックトランスミッション ⑥ トラブル・シューティング(基礎) ⑦ ジーゼル装置 ⑧ アライメント実習(4輪、2輪) ⑨ エンジン構造(2輪)	4	①12ヶ月点検概要及び記録簿の記載方法を習得する。 ②エア・コンディショナの各部品の脱着をおこない仕組み及び点検方法を理解する。 ③道路運送車両法及び継続検査の判断基準を理解する。 ④電子部品、半導体の組付方法及び役割を理解する。 ⑤オートマチックトランスミッション分解及び構造を理解する。 ⑥トラブルシューティングの考え方、点検方法の基本を学ぶ。 ⑦ジーゼル装置の各部品の脱着をおこない仕組み及び点検方法を理解する。 ⑧アライメント測定を行い、重要性、注意点、着目点を理解する。 4輪と2輪のアライメントの違いを確認、学習する。 ⑨2輪特有のエンジン構造を理解する。	①～⑨				
		5						
		6						
		7						
		8						
		9						
		学 後			⑨ トラブル・シューティング(応用) ⑩ ブレーキ装置(4輪、2輪)	10	⑨実際の不具合を点検、修理との一連の作業を実践的に行い学習する。 ⑩ブレーキ装置、真空倍力装置など確認、点検する。 4輪と2輪のブレーキの構造、作動、ABSなど学習する。	⑨～⑩
						11		
						12		
年 期	⑪ 総合実力確認実習	1	⑪受講している実習内容に関する技能及びこれに関する知識を十分に取得 したことを確認する。					
		2						
		3						

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
就職実務Ⅱ	講義		1	1	学 年	二年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	・就職後のビジネスマナーの周知 ・福利厚生 of 仕組みを周知(給与明細、年金制度)
使用教科書・副教材等	ビジネス実務マナー検定 2級・3級 らくらく合格 テキスト&問題集(翔泳社) 働くこと労働法(厚生労働省)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	成績評価の50%未満
後期	成績評価の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 二 期	【ビジネス実務マナー検定】 基本マナー 会話マナー 接客マナー ビジネス文書 冠婚葬祭	4	1.基本マナー 身だしなみや、ハウレンソウなどの働くうえでの基礎を学習。	前期試験
		5	2.会話マナー 尊敬語、謙譲語、丁寧語のTPO、応用を学習。	
		6	3.接客マナー 挨拶、名刺交換、訪問の際のノーハウを学習。	
		7	4.ビジネス文書 ビジネス文書の基礎知識	
		8	5.冠婚葬祭マナー 業界に付随したマナー実例などを学習。前期総括。	
学 年	【働くこと労働法】 社会人基礎力 年金制度 給与明細 労使協定など	10	1.社会人基礎力 社会で活躍する為の向上心やを養い個人目標を設定。	後期試験
		11	2.年金制度 基本的な知識を学習。	
		12	(国民年金と厚生年金の違いを確認)	
		1	3.給与明細 源泉徴収内容や、労使折半に関して学習。	
		2	4.労使協定など	
3	1~4に付随したその他の労使協定について。			

6 特記事項

--